



年頭所感

東海農政局長 森 重樹



新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

現在、農林水産省においては、食料・農業・農村を取り巻く環境の大きな変化（世界の食料安全保障環境、カーボンニュートラル等の持続可能性への関心の高まり、我が国における人口減少社会の本格化）を踏まえ、食料・農業・農村基本法の見直しを進めています。昨年9月に食料・農業・農村政策審議会で取りまとめられた最終答申を踏まえ、施策の具体化を進めるとともに、本年の通常国会での基本法の改正案提出に向けて準備が進められています。

【食料安全保障の強化】

燃料、肥料、飼料など生産資材の価格高騰は、農業経営に大きな影響を与えています。関係機関と連携しつつ、国内資源のさらなる活用と価格高騰対策を着実に推進してまいります。

併せて、食料安全保障の強化を図るため、小麦や大豆、飼料作物などの海外依存度の高い品目の生産拡大や米粉の利用拡大等に取り組めます。

【農林水産物・食品の輸出促進】

人口減少に伴い国内市場の縮小が見込まれる中、国内の農業生産基盤の維持を図るためにも、農林水産物・食品の輸出促進が重要です。「東海農政局輸出産地支援対策本部」の下、局全体で連携しつつ輸出促進体制の強化による輸出事業者の裾野拡大、輸出事業計画の目標に向けた支援等を行ってまいります。

【みどりの食料システム戦略の推進】

「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業の拡大、消費者の選択を容易にする環境負荷低減の取り組みの「見える化」等の施策を着実に実施し、将来にわたり持続可能な食料システムの確立を図ってまいります。

【スマート農業の推進】

労働力不足の解消や生産性向上等を実現するため、ロボットやAI、ICTなどを活用したスマート農業技術により農作業を省力化していくことが重要です。東海地域の高い技術力を生かし、地域の大学や企業等とも連携を図りながら、スマート農業技術の推進を通じて、この地域が発展していくよう取り組んでまいります。

また、農林水産物・食品分野において効率的な物流を実現するため、物流DXを活用し、物流2024年問題にも対応できるよう取り組んでまいります。

【農村や農業インフラの維持】

地域の新たな就業機会を確保するための取り組みを進めるとともに、用排水路などを管理しやすいものに整備し、農業インフラを地域全体で維持管理していく取り組みを進めます。

【鳥インフルエンザ対策】

今シーズンも昨年11月に国内養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、養鶏業等に携わる関係者の皆さまにおかれましては、引き続き警戒を強化していただいているところです。高病原性鳥インフルエンザの発生予防及びまん延防止に取り組むとともに、畜産物の安定供給の確保のため、適切な農場の分割管理等に取り組むための環境整備や施設整備に対する支援を行ってまいります。

東海農政局としましては、施策の推進にあたり、現場の声に耳を傾け、誠心誠意取り組んでまいります。

本年も、農林水産行政に対する皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願いするとともに、皆さまには幸多き年となりますよう、心から祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

国内水産物を食べて応援しよう！ ～#食べるぜニッポン～

ALPS 処理水の海洋放出以降の一部の国・地域の輸入規制強化により、日本の水産業は販路を失い影響を受けているため、関係省庁は「水産業を守る」政策パッケージをはじめとする各種の支援策を講じています。農林水産省でも国内水産物の消費拡大を図る取り組みとして、令和5年9月より「#食べるぜニッポン」キャンペーンを行っています。この取り組みの一環として、東海農政局においても、国内における消費拡大の取り組み「国内水産物を食べて応援しよう！」を企画しました。

「常盤もの」や東海地域の地元産を中心とする国内産水産物のおいしさを、職員が積極的に消費することにより改めて共有することで、復興地域の水産物や輸出規制を受ける水産物の販売促進を支援します。

実施期間：令和5年12月1日（金曜日）から令和6年2月29日（木曜日）まで

対象商品：「定番」海鮮セット 7,000円
「特選」海鮮おすすめセット 10,000円
「極上」海鮮プレミアムセット 13,000円

協力：株式会社富田商店

販売場所：株式会社富田商店のECサイト

#食べるぜ ニッポン!



株式会社富田商店ECサイトはこちらから

※ECサイト内の



バナーをクリック

Yahoo!ショッピング

<https://store.shopping.yahoo.co.jp/omotenashi2019/> →



楽天市場

<https://www.rakuten.co.jp/omotenashi2017/> →



詳細はこちらから（東海農政局プレスリリース）

<https://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/231122.html> →



お問合せ先

経営・事業支援部 食品企業課
企画調整室

TEL 052-746-6430
TEL 052-223-4610

「学校給食セミナー×交流会」を開催しました

学校給食における地場農産物の活用促進は、第4次食育推進基本計画の中で具体的な数値目標として掲げられています。また、持続可能な食を支える食育推進の観点から、環境に配慮して生産された農産物の活用への理解促進も重要となっています。

このため東海農政局は令和5年度に3回にわたり、学校給食における地場農産物・有機農産物等の活用の推進について、アドバイザーを招き先進事例を紹介するセミナーと、参加者同士や講師・アドバイザーとの情報交換および課題共有等の場として交流会を実施しました。



アドバイザー
女子栄養大学 金田名誉教授



アドバイザー
オーガニックファーマーズ
名古屋 吉野代表



千空農園 代表 長谷川泰幸氏（左）
白川町役場 農林課 西野仙幸氏（右）

第3回講師



交流会の様子（第1回より）

セミナー内容

【第3回】令和5年11月17日（金曜日）

岐阜県白川町（有機農家を起点にして有機給食を実現（ボトムアップ型）した白川町の取り組みを紹介）

【第2回】令和5年7月11日（火曜日）

愛知県東郷町（町長主導により有機給食を実現（トップダウン型））

【第1回】令和5年4月21日（金曜日）

静岡県袋井市（教育委員会職員が地産地消コーディネーターとなり地場農産物の活用率50%超）

千葉県いすみ市（農林課職員を中心に市が主導し有機米給食100%達成）



第1～3回の講演内容(アーカイブ動画)はこちらより→



お問合せ先

消費・安全部 消費生活課
TEL 052-223-4651

有機農産物等を扱う店舗の情報をWebサイトで紹介しています

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を令和3年5月に策定し、環境負荷の低減につながる有機農業を推進しています。
東海農政局は、多くの方に有機農産物等への興味を持っていただくため、有機農産物等を取り扱っている店舗をご紹介しますWebサイトを開設しています。順次、情報を更新していきますので、ぜひご覧ください。



岐阜県
愛知県
名古屋市
三重県



●をクリックすると、一覧が表示されます

事例集に掲載のお店

旬楽膳 八幡店

住所：一宮市八幡4-1-1
電話：0586-46-1851
販売形態：(店舗) (通販)
ホームページ (外部リンク) SNS (外部リンク)

株式会社yaotomi

住所：半田市富本町3-217-21
電話：0569-89-9715
販売形態：(宅配) (通販)
ホームページ (外部リンク) SNS (外部リンク)

販売形態を表示
(店舗、宅配、通販、飲食)

イオン 木曽川店

住所：一宮市木曽川町黒田字南八ツケ池25-1
電話：0586-84-4333
販売形態：(店舗)
ホームページ (外部リンク)

グリーンセンター豊川

住所：豊川市馬場町上石畑65
ホームページ (外部リンク)
東海農政局の直売所訪問記
対談集 (PDF:1,813KB) データ集 (PDF:279KB)

店舗等のWebサイトやSNSへリンク



直売所について、取組内容や開設の経緯、今後の展望などを会話形式で取りまとめた「東海農政局の直売所訪問記」へリンク



https://www.maff.go.jp/tokai/keiei/shokuhin/bunka/organic/shops_map.html

お問合せ先 経営・事業支援部 食品企業課 TEL 052-746-6430

循環型社会の実現に向けて取り組んでいます

愛知県立南陽高等学校（授業「農業と生活」&部活動「Nanyo Company部」）

事例紹介

愛知県立南陽高等学校（総合学科）は、名古屋市南西部の平野部に位置し、都市近郊にありながら米や野菜作りが盛んな地域でもあります。このような環境のもと、同校では「夢に挑戦・社会に貢献～さらなる高みを目指して～」をスローガンに、農業体験学習や地元企業と連携して、規格外野菜を使用した商品開発、地域貢献活動（藤前干潟クリーン大作戦）など、多岐にわたる活動を行っています。

温室効果ガス削減「見える化」実証で★3つを獲得しました

- 授業「農業と生活」では、農業生産法人の栽培指導を受け、3年前からプラスチック被覆肥料を使用しないなど、環境にやさしい方法でお米を栽培しています。
- 部活動「Nanyo Company部」では、市場流通しない廃棄される規格外野菜（スイートコーン、ほうれん草）をスコーンやジェラート等に加工する商品開発をしています。
- 米とほうれん草等の野菜は、見える化実証で★3つとなり、11月11日（土曜日）、12日（日曜日）に大型商業施設で見える化ラベルを貼るなどした精米やスコーン等を販売しました。



硫黄被覆肥料を使用した田植え



「見える化」商品を大型商業施設で販売
(令和5年11月11日(土曜日)および12日(日曜日))



ほうれん草の収穫体験
「Nanyo Company部」



「見える化」ラベル



プラスチック被覆肥料
不使用のマーク
考案：愛知県立南陽高等学校



愛知県立南陽高等学校Webサイト

授業「農業と生活」

: <https://nanyo-h.aichi-c.ed.jp/course%20food.html>

部活動「Nanyo Company部」

: <https://nanyo-h.aichi-c.ed.jp/b-nanyo%20company.html>



部活動「Nanyo Company部」

「ニャンズと学ぶ食文化」のご紹介

四季折々の食材に恵まれている日本は、長い年月をかけ、地域の歴史や風土、民俗、伝統的な行事と結びついて食文化が形成されています。こうした食文化は、未来に向けて大切に守り伝えていくべきものです。

日本の食文化について親しみやすいようキャラクターなどイラストを用いて解説した「ニャンズと学ぶ食文化」をWebサイトで紹介しています。今回は「みそができるまで」のお話です。

食文化を知る、興味を深めるきっかけになればと考えています。ぜひご一読ください。



<https://www.maff.go.jp/tokai/keiei/shokuhin/bunka/chiikinodentou.html#R51102>

お問合せ先 経営・事業支援部 食品企業課 TEL 052-746-6430

「人・農地プラン」から「地域計画」へ～報道機関の皆さまと意見交換会を行いました～

農業経営基盤強化促進法等の改正により、これまで地域での話し合いにより進めてきた「人・農地プラン」が法定化され、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を定めることになりました。地域計画では今まで人・農地プランで取り組んできた地域農業の将来の在り方に加え、農地ごとに将来の受け手を位置付けた目標地図を定めることにより、地域の農地を次の世代に確実に引き継いでいくことを目指します。

東海農政局は11月17日（金曜日）および11月29日（水曜日）、報道各社に人と農地の問題について理解を深めていただくため、「担い手への農地集積の推進（地域計画の策定を目指して）」をテーマに記者懇談会を開催しました。

説明会（11月17日）

農地集積と担い手の現状や地域計画の達成に向けた取り組み等について紹介しました。



説明会の様子

現地見学会（11月29日）

地域計画が法律に位置付けられる以前から、地域の関係者が一体となって水田のゾーニング地図を作成し、農地の集約化を推進してきた愛西市を訪問しました。

愛西市、JAあいち海部の職員からゾーニング地図作成を行った経緯や苦労話、これから取り組むことになる地域計画の作成について説明を受けた後、今後の進め方などに関して意見交換を行いました。その後、8月に改装された「れんこんセンター」の見学を行いました。



愛西市役所において意見交換会の様子



れんこんセンターの駐車場でJAあいち海部の職員から説明を受ける記者の様子

お問合せ先

地域計画に関すること
記者懇談会に関すること

経営・事業支援部 担い手育成課
企画調整室

TEL 052-715-5191

TEL 052-223-4610

<編 集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<Webサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」
Webサイト



メールマガジンの
登録はこちら